

貿易構造が我が国の生産誘発効果に与える影響 (基本分類の非競争輸入型産業連関表の意義) 補足資料: カラーグラフ (2014 年9月2日 修正版)

経済産業省通商政策局

企画調査室

宇多 賢治郎¹

『経済統計研究』第38巻第IV号に掲載された「貿易構造が我が国の生産誘発効果に与える影響 (基本分類の非競争輸入型産業連関表の意義)」のグラフの一部は本来、カラーで表現することを前提に作成されたものである。しかし、掲載誌の都合により、白黒表現で作り直したものを掲載した。

これにより説明力の低下が生じたため、『経済産業統計協会』の Web サイトにカラー版のグラフを抜粋した本稿を掲載した。論文と合わせて読んでいただけたら幸いである²。

図1 日本の加工度別の貿易額の対 GDP 比(貿易依存度、円建て、名目値)

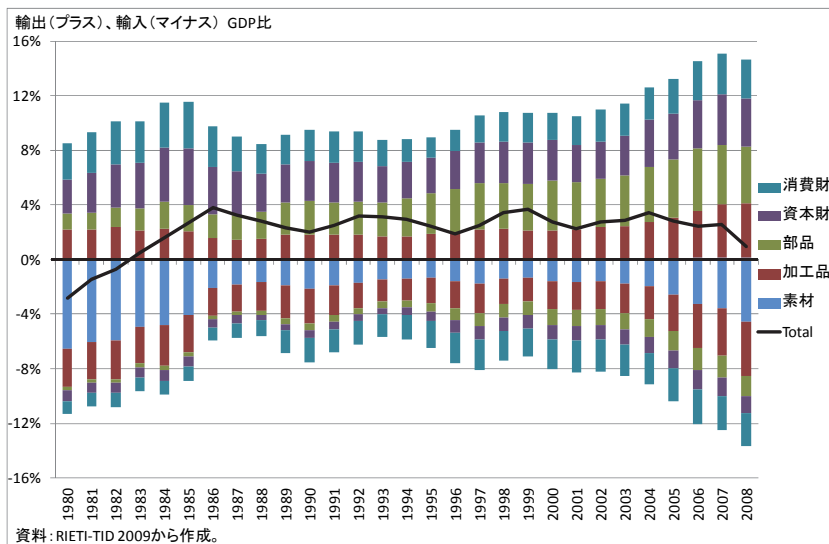
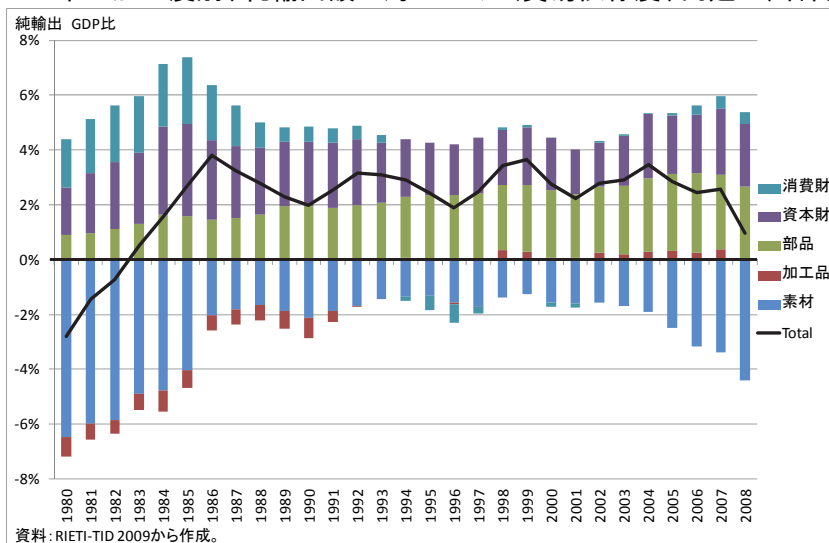


図2 日本の加工度別、純輸出額の対 GDP 比(貿易依存度、円建て、名目値)



¹ 任期付職員(2012年3月まで)、博士(経済学)、非常勤講師(立正大学、九州大学)、E-mail: ken_uda@hotmail.com

² 『経済産業統計協会』の Web サイト <http://www.bekkoame.ne.jp/ha/ie25444/>

図3 中間投入係数行列と間接の波及効果の色覚化

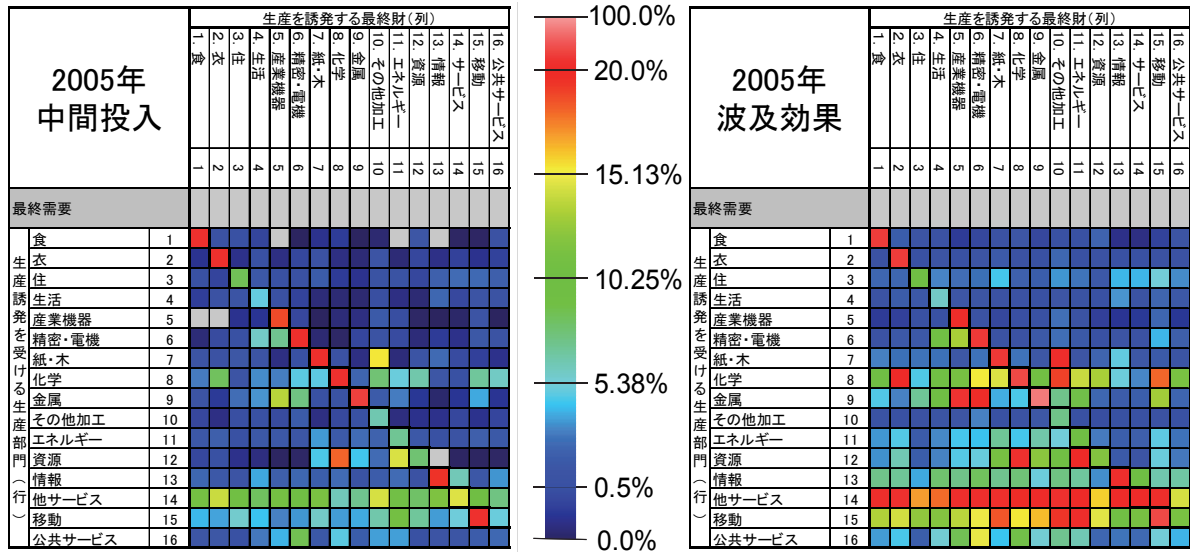


図6 国内分業率の行列の例

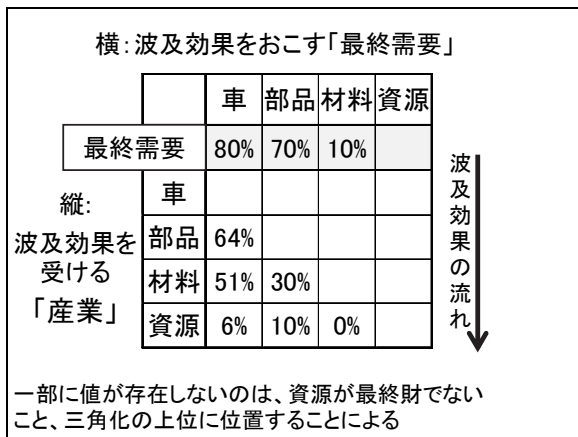


図7 国内分業率のグラフ化の例

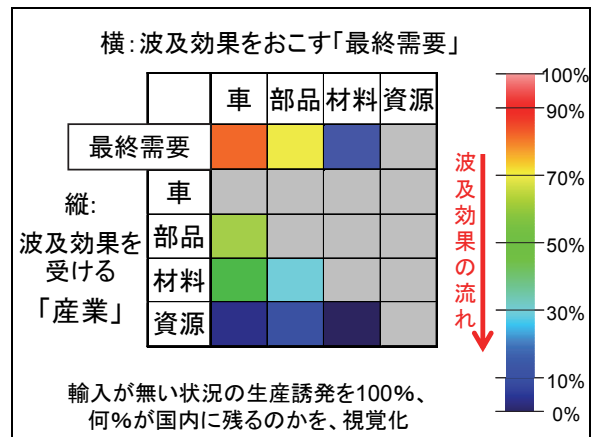


図8 輸入係数マトリックスの色覚化

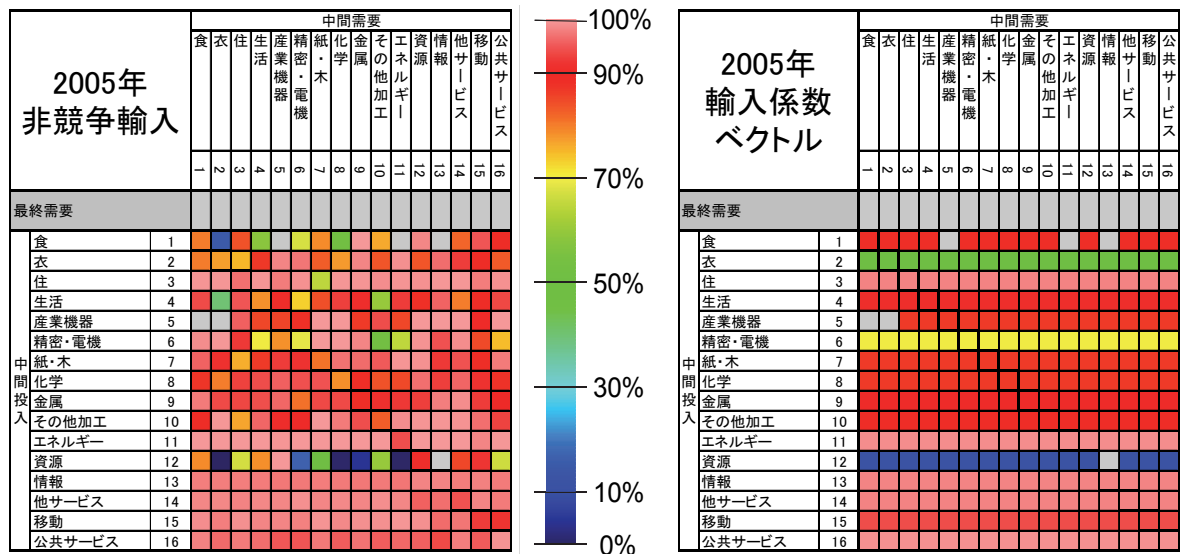


図9 二種類の IO 表を使った国内残存率グラフ

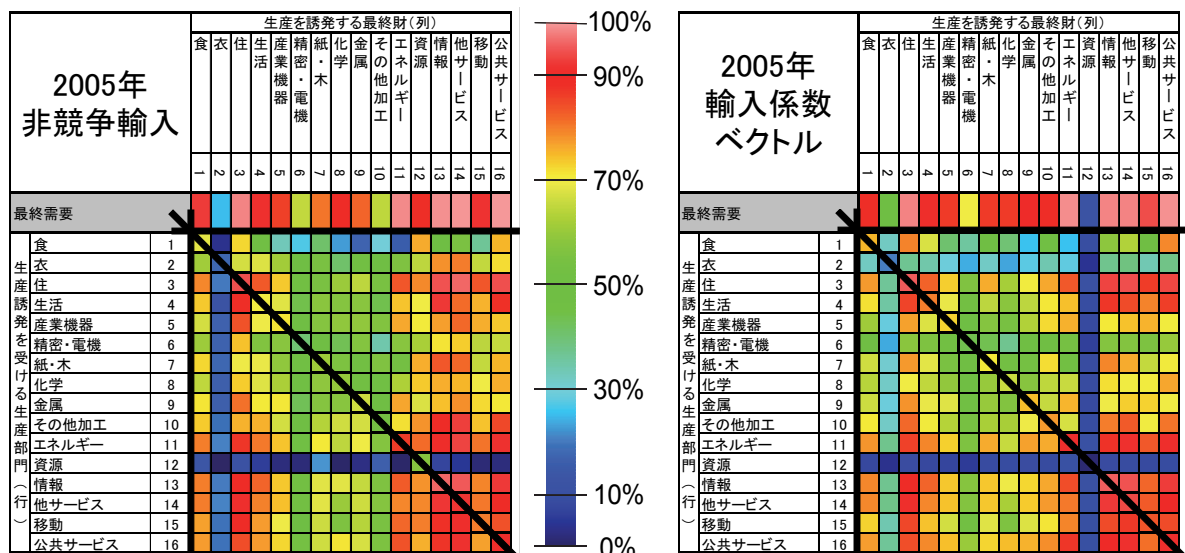
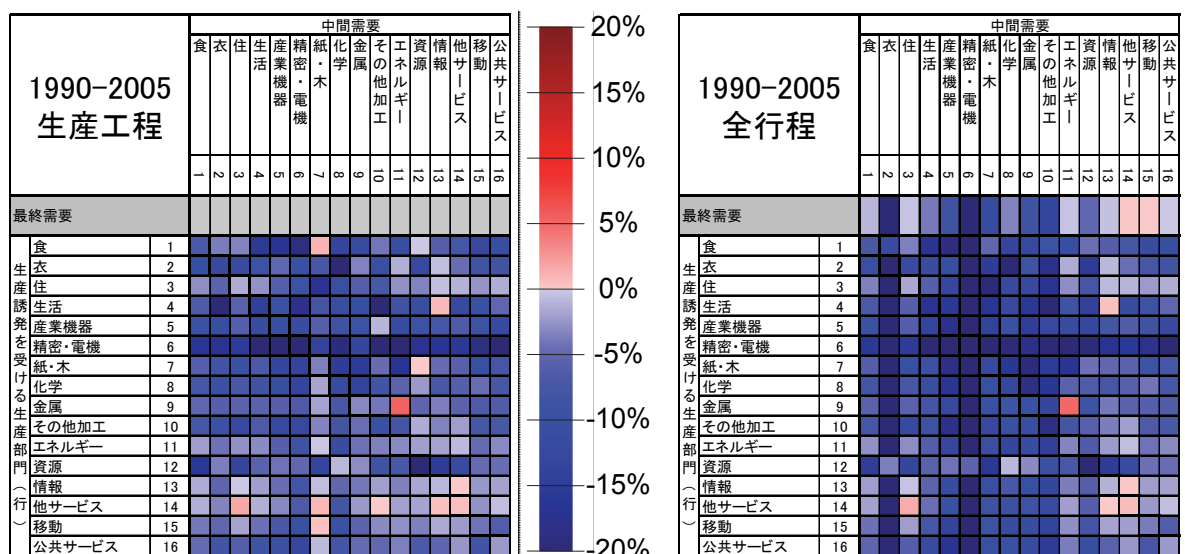


図12 1990年～2005年の生産誘発効果の国内残存率の変化



本補足ファイルの以下の図 10、図 11 を修正した。

論文、p.102 では、「計算はすべて 386 部門の IO 表で行い、それを式 8 で 16 部門に統合したデータを分析に用いている。」と説明しているように、368 部門に計算後、グラフ用に 16 部門に統合するはずだったのが、統合後に計算した方を掲載していた。訂正し、正誤両方のグラフを記載する。

二つのグラフを比較すると、作成手順の違いがグラフに影響を与えていることが確認できる。しかし、手続き上は多部門で計算し、分析用に統合することが望ましいのだろう。しかし、両図、特に図 11 を比較すると、部門を整理、統合したものの方が特徴を捉えているように見えており、マクロに、俯瞰的に傾向を捉えることの難しさが表現されているように思える。

なお、論文の方は説明通りのグラフが掲載されていることを確認した。

2014 年 9 月 2 日

図 10 「生産工程」における生産誘発効果の国内残存率

(修正版、386 部門で計算後に 16 部門に統合し、グラフ化したもの)

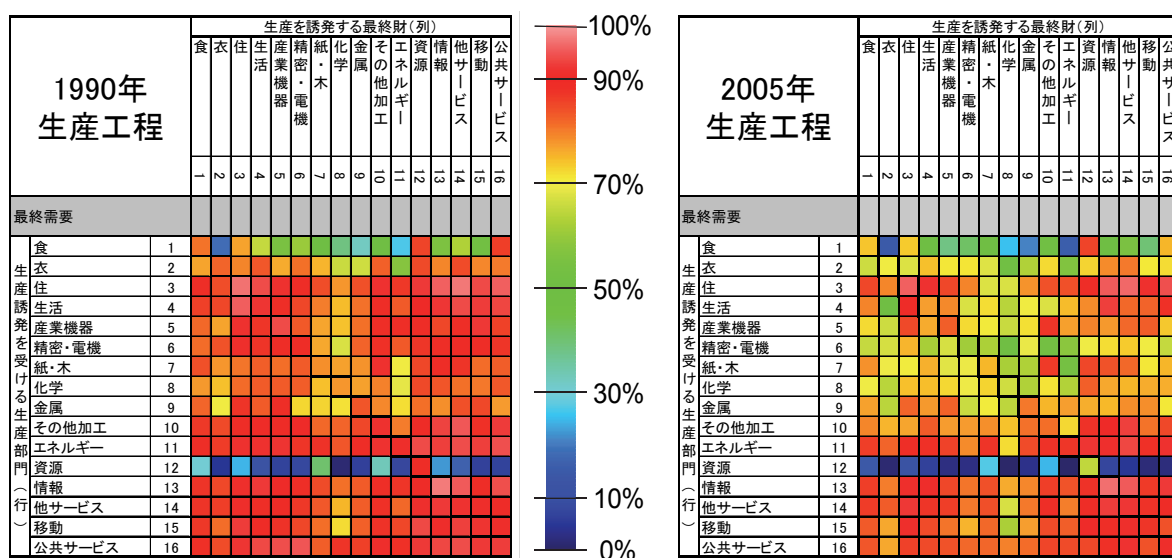


図 10 「生産工程」における生産誘発効果の国内残存率

(修正前: 16 部門に統合してから計算し、グラフ化したもの)

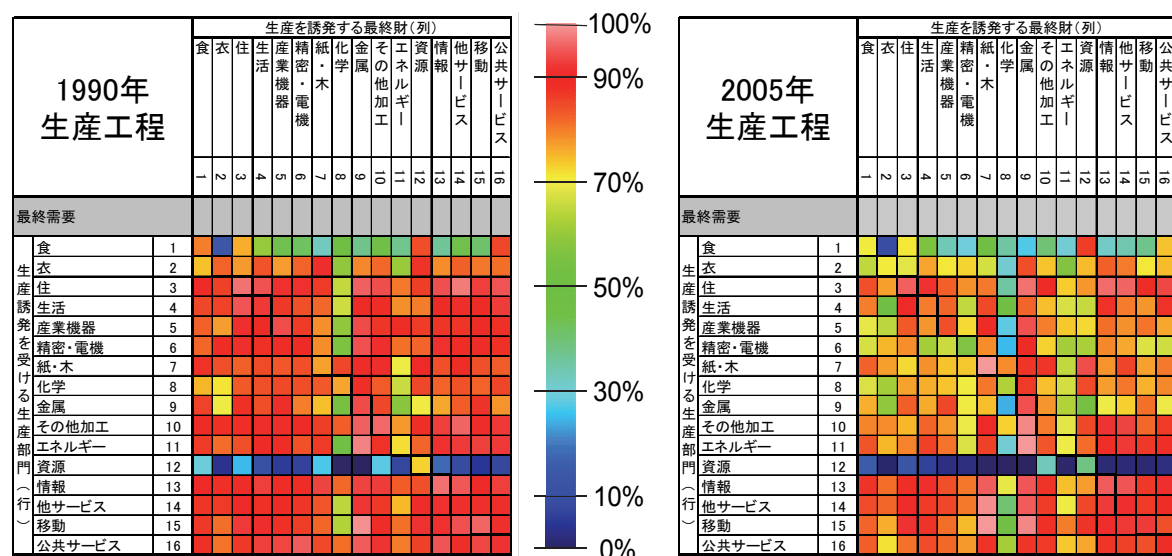


図 11 「全過程」における生産誘発効果の国内残存率

(修正版、386 部門で計算後に 16 部門に統合し、グラフ化したもの)

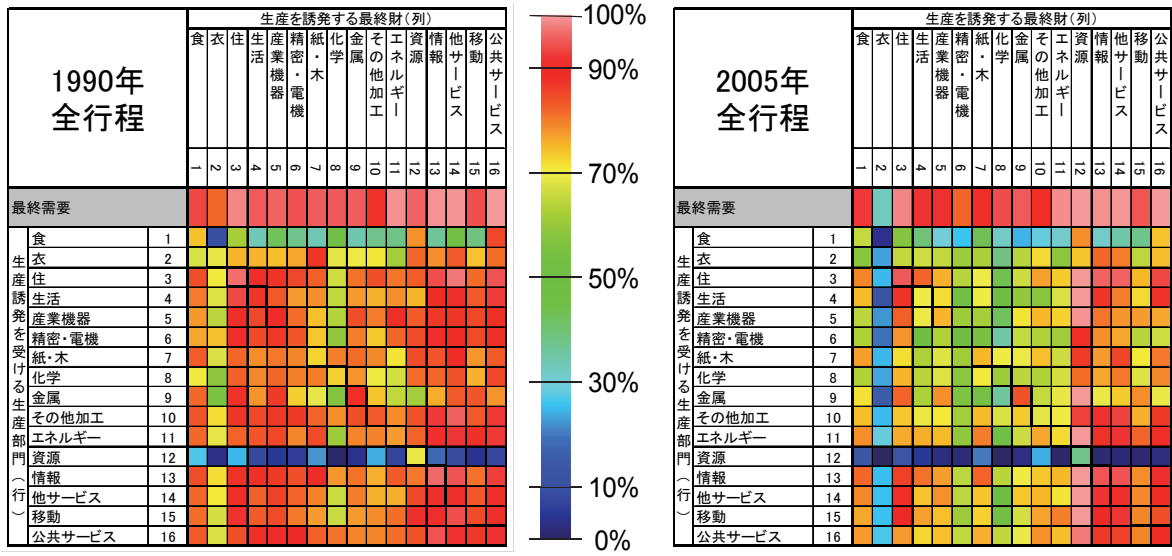


図 11 「全過程」における生産誘発効果の国内残存率

(修正前:16 部門に統合してから計算し、グラフ化したもの)

